



研究テーマ

1 野生動物の狩猟と動物に関する祭りの意義研究

2 狩猟統計・法令による野生動物との関係研究

3 地域資源としての民俗伝承のアーカイブス化と社会的価値の議論

研究概要

I. 野生動物を狩り、食べることの民俗学的研究をおこなっています。特に動物と人の関係における祭りを通じて、野生動物と人の関係、および経済と宗教・倫理・道徳との関係を研究しています。
II. 設立準備を進めている地域資源情報活用センターでは、これからの地域社会をつくる社会的価値としての民俗伝承をアーカイブス化（デジタル化による情報統合）し、伝承すべき価値を議論していきます。

鈴木 良幸

すずき よしゆき
地域資源創成学研究所

講師

キーワード

狩猟（銃猟、罟猟）、イノシシ飼育・競り市、狩猟儀礼（狩猟活動における儀礼）、猟神、山の神、動物儀礼（動物に関する地域でおこなう祭り）、模造獣儀礼、狩猟倫理狩猟統計（狩猟人口、鳥獣別捕獲数と県別分布）、狩猟法令の変遷民俗伝承・資料のアーカイブス化（デジタル化）民俗伝承の社会的価値の再評価

特許情報・
共同研究・
応用分野など

- 記録作成事業
 - 愛知県北設楽郡記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財「設楽のシカウチ行事」調査記録事業のための調査・執筆
 - 鳥根県江津市記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財「山中のお改めとシカ狩り行事」調査記録事業のための調査・執筆（進行中）など

1 野生動物の狩猟と動物に関する祭りの意義研究

宮崎県をはじめ日本列島には、動物を犠牲とする「地域でおこなう祭り」が伝承されています。特に宮崎県は、中山間地がその多くを占め、野生動物との間に密接な「関係」を築いてきました。動物を捕獲して食べることは経済の一環ですが、その一方で猟師の間に宗教的儀礼が形成されてきました。また動物を贄としてあげる神楽も伝承されます。経済と宗教儀礼のあいだにはどのような関係があるのでしょうか。儀礼や祭りだけでなく、狩猟活動の「プロセス」に光を当てることで、祭りや狩猟倫理の形成に関する仕組みが分かってきました。

2 狩猟統計・法令による野生動物との関係研究

狩猟活動には、どのような傾向と画期があったのでしょうか。大正期以降の狩猟統計および明治以降の法令、狩猟規制、猟期、捕獲可能指定鳥獣の変遷を整理し、時代状況を加味しながら分析しました。狩猟の傾向として「東の羽物、西の大物」という言葉があります。宮崎県は、イノシシ、シカの捕獲数で全国1、2位を争う大物猟の最も盛んな県の一つです。その一方で、過去には盛んであった鳥類および小型獣の捕獲数が激減しており、大物以外の野生動物との関係の喪失という転換点を迎えていることが明らかになってきました。

3 地域資源としての民俗伝承のアーカイブス化と社会的価値の議論

民俗伝承は、これからの時代の地域社会をつくる基盤です。伝承は工業化・都市化以前において、地域の社会全体を形づくってきました。行き詰まる現代の生活システムの見直しを図るためには、その一つ一つを取り上げて議論し、社会的価値を再評価しながら生活を再構築していくことが急務です。量的拡大ではなく、質をともなった地域社会の発展のためには、経済的価値を包摂する社会的価値が重要なのです。宮崎は民俗伝承の宝庫です。時代の最先端のライフスタイルを提案できる可能性を持っています。

ホームページ

なし

技術相談に応じられる関連分野

・ 猟師の方々や地域と連携した野生動物との関係問題の究明

メッセージ

・ 地元にある民俗伝承の掘り起こしと記録をおこない、議論を通じて伝承を現代生活に体现していきましょう。（例えば、郷土料理、年中行事の詳細など）